

第 18 回入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和 7 年 8 月 1 日（金）本部 1 号館第 2 会議室	
委員	委員長 加藤 倫子（弁護士） 委員 山田 順（公認会計士） 委員 笠野 寿治（不動産鑑定士） 委員 西田 裕（東海国立大学機構監事）	
審議対象期間	令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日	
抽出案件（合計）	28 件	（備考）
工事（小計）	24 件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼は無し。 <抽出案件> 名古屋大学 7 件 静岡大学 3 件 浜松医科大学 3 件 三重大学 3 件 岐阜大学 3 件 豊橋技術科学大学 3 件 愛知教育大学 3 件 名古屋工業大学 3 件 合計 28 件
一般競争入札（政府調達に関する協定対象工事）	2 件	
一般競争入札（上記を除く）	22 件	
工事希望型競争入札	0 件	
通常指名競争入札	0 件	
随意契約	0 件	
設計・コンサルティング業務（小計）	4 件	
公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	3 件	
標準型プロポーザル方式	0 件	
一般競争入札	1 件	
随意契約	0 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別紙

議事の進行及び委員からの質問	回 答
1. 工事及び設計・コンサルティング業務の審議対象案件の抽出方法について (担当委員より抽出方法について説明) ・特になし	
2. 各大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務及び審議対象案件について (担当委員より資料に基づき説明) ・特になし	
3. 指名停止等の措置状況について (委員長より結果の報告) ・特になし	
4. 再苦情処理会議への申立状況について (委員長より結果の報告) ・特になし	
5. 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続について (施設統括部より資料に基づき概要説明) ・低入札における最低制限価格は設けられているのか。 ・予定価格が少額な随意契約の基準額は 400 万円以下としているが、大学の規模によってこの基準を変えることができるのか。	・最低制限価格の設定や制度の導入はされていない。 ・法律で定められた基準額の範囲内であれば、各大学で運用上の基準を設けることは可能な仕組みとなっている。ただし、実際にはその金額が 500 万円を超えることはないと考えられる。
6. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 (各大学担当者より資料に基づき説明)	
①名古屋大学（東海国立大学機構） (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事） 【(東山)LYKEION 研究棟(仮称)新営機械設備工事】 ・落札率が高めとなっているが、競争性は十分に確保されていたのか。 ・1 者から辞退された理由は何か。	・今回の入札には 3 者の応募があったが、そのうち 2 者が辞退したため、結果として 1 者のみの応札となった。 ・近年、特に建設業界では管理技術者や現場代理人などの人材不足が深刻化していること。加えて半導体不足などの影響により、機器の納期遅延が懸念されることも多く、これらの要因から工事への参加を辞退する業者が出ていると聞

・ 予定価格と今回の契約金額との差額について、具体的な分析や調査は行われているか。	いている。 ・ 入札業者には、工事費や管理費など項目ごとに金額を記載した入札内訳書の提出を求めている、それらの内容を分析している。
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）	
【(医病) 基幹・環境整備(入退室管理設備) 工事】	
・ 入札方式は一般的に落札率が高くなる実績評価型で入札者が1 者にもかかわらず落札率が低くなった経緯を説明いただきたい。 ・ かなり低い落札率となったが、積算根拠や予定価格の設定に問題はなかったか。	・ 今回は既設機器が主となる工事で、落札業者は、その既設工事を担当した施工業者であったことから、入札の対象設備に精通していた。さらに、同時期に近隣で同様の工事を実施していたことから、技術者の配置や設備の調達等、効率的に行うことができ、低価格での入札が可能になったと考えられる。 ・ 今回の工事は機器費の割合が高く、機器価格や査定率の考え方に検討の余地があったかもしれない。特に今回は入退管設備に特化した工事であり、従来の全体工事での査定率の考え方と、今回のような特化した場合とで、差が生じた可能性があるため、検討事項としたい。
【(東山) 研究所共同館Ⅰ等空調設備改修工事】	
・ 特になし	
【(大幸) 基幹・環境整備(受変電設備等) 工事】	
・ 1 者のみの参加となった理由は何か。 ・ 納期や工事期間を工夫することはできないのか。 ・ 開始時期を早めることはできないのか。	・ 特に高圧受変電設備は、現在の市場状況では納期の確保が難しいとされており、そのため、参入できる業者が少ないというのが現状としてある。 ・ 予算が「施設整備費補助金」によるものであり、原則として納期は年度内となる。文部科学省から予算と執行年度が定められていることから、納期の調整は難しい。年度の繰越が認められれば、より多くの業者の参入が期待できるが、現行では、難しい状況である。 ・ 予算の補助金には、その設計費も含まれ、通常設計に3～4 か月、その後入札・契約手続きに1～2 か月を要し、夏頃に業者を確保できるスケジュールになる。これを前倒しするには、大学予算にするか、直営で設計を行うなどの工夫が必要となる。また特に、高圧受変電設備に関しては、技術者の不足が深刻となっている。

【(東山)基幹・環境整備(排水設備Ⅳ期)工事】

・この入札では、企業の工事成績によって評価点に差がついているが、評価点がゼロだったのは、工事実績がなかったということか。

・入札の結果については、どこまで業者に開示されるのか。

・工事成績については、業者による自己申告制を採用しており、提出された内容を大学で検証する形を取っている。参加資格としては、過去15年間で工事実績があれば入札に参加可能だが、評価点に反映されるのは直近の工事成績であり、今回の業者は、参加資格は満たしているが、加点対象となる工事成績がなかったため、評価点がゼロになったものと考えられる。

・基本的には自社が落札したかどうかのみ通知される。ただし、最終的な契約金額は公表される。なお、業者から要望があれば、結果に関する情報を個別にお知らせすることは可能である。

【(東山)文学部本館等外壁改修工事】

・入札者が5者であるものの入札方式が実績評価型で落札率が低くなった経緯を説明いただきたい。

・偶発的な要因はあるかもしれないが、やはり落札率が低いのではないか。予定価格の設定に問題があった可能性はないのか。

・もともと評価点が最も高かった業者が辞退し、残った業者間の評価点に大きな差がなかったため、結果として落札率が低くなった。偶発的な事情によるものと考えられる。

・今回の工事は、外壁改修に特化した単発の工事であり、そのため参加する業者も特化した専門業者が中心となるので、比較的安価な価格での入札が可能になったと考えられる。今後は工事の特性を踏まえ、査定率を柔軟に設定することも検討する。

【(東山)工学部9号館(Ⅰ期)・8号館北棟改修電気設備工事】

・入札方式が実績評価型でないのに落札率が高くなった理由について説明いただきたい。

・当初は総合評価落札方式で入札を実施したが、1回目は不調に終わったため、2回目は契約までの期間短縮を目的として、最低価格落札方式に変更して実施した。その際、設計内容の見直しや市場調査を行い、市場実勢に即した精度の高い予定価格に見直しされたため、落札率が高くなったと推測される。

②静岡大学

(1) 建設工事
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）

【(布橋)教育学部附属浜松小中学校校舎改修電気設備工事(再度公告)】

・入札方式が実績評価型でないにもかかわらず、入札者が1者であった理由を説明いただきたい。

・一般的に学校施設における工事は、夏休み期間中に実施される傾向があるため、同時期に静岡県内の学校で空調機や電源工事の発注が集中し、それらの工事に対応するため技術者の確保が困難となり、本学の入札に参加可能な業者が限られてしまったと考えられる。

・再度の公告において、1 回目から 2 回目にかけて変更された点は何があるか。	・今回の工事では、当初 8 月末までの引き渡しを予定していたが、工期を見直し、夏休みから緩和して延ばす対応とした。その結果、平日の夕方や土日にも作業を行うことで、夏休み期間に集中していた工事の分散化に効果があった。 また、入札参加者を増やすため、一般競争参加者の資格制限を緩和し、1 級上位としていたものを 2 級上位までに変更した。
【（布橋）教育学部附属浜松小学校等とりこわし工事】 ・低入札価格調査の実施概要において、「経営状況」は「公表しないこととする」と記載されているが、実際には確認を行っているのか。問題がないのであれば、その旨記載しても良いのではないか。 ・今回の入札者は岐阜県羽島市の業者で、現場まで距離があり、近隣業者と比べて移動や運搬等にコストがかかると思われるが、その点どのように判断されたのか。	・業者から提出された財務諸表等をもとに確認・調査は行っている。記載の仕方について今後は調査の結果問題がなければ、問題なしと記載するようにする。 ・現場までの距離はあるが、運搬は最初と最後に限られること。また、今回は 5 棟を対象とした工事で、稼働日数は確保できるという見立てがあったのではないかと考えられる。加えて、現場は高速道路からのアクセスも良好で、立地条件は悪くないとの判断もあったと推測される。
(2) 設計・コンサルティング業務 簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	・まず各業者の技術力を確認した上で、評価結果に基づき一番手・二番手の業者を特定し、その後、一番手の業者に対して、予定価格との折り合いがつくかを確認するため、見積合わせを行った。結果、予定価格を下回る見積が提出されたため、随意契約の形で契約を行った。 ・委員は、施設課長、総務部企画課長、財務課長、契約課長の 4 名で構成されている。 施設課の職員が素案を作成し説明を行い、委員がその内容に対して意見を出し、最終案を確定する流れで、専門知識よりも設計業務を遂行できる技術力の有無を判断する形となる。
③浜松医科大学 (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） 【エネルギーセンター直流電源設備更新工事】 ・落札率が低くなった理由及び低入札価格調査の調査内容についてご説明いただきたい。	・今回の工事で購入予定の直流電源装置は、製造元が親会社であり、マージン等を含まず直接購入が可能であったことから、経費の縮減につながったと推測される。また、低入札価格調査

・入札の競争参加資格として実績要件は設けているか。 ・低入札価格調査の実施概要において、「経営状況」は「公表しないこととする」と記載されているが、実際には確認を行っているのか。フォームがこういう記載なのか。	において、手持工事、手持資材の状況や現場管理体制等の確立も確認を取っており、総合的に勘案して適正な契約履行が見込まれると判断した。 ・入札説明書の競争参加資格に記載のとおり、実績を有することを設けている。 ・文部科学省の様式に合わせた形で作成している。経営状況については、確認を行っている。
【基幹整備（屋外ガス管）工事（Ⅰ期）】 ・再公告となった経緯について、当初の公告内容からどのような点を変更したのか、また、入札方式に実績評価型を適用した理由についてご説明いただきたい。 ・低入札調査基準価格が高い基準価格の設定になっているが、価格の決め方にルールがあるのか。	・当初の公告内容から予定価格を含めて工事内容は変更していないが、工期末を延長とした。また、実績評価型総合落札方式は、技術的な工夫の余地が少ない一般的な工事で、かつ施工実績により品質を強化できる工事に適用しているため、この入札方式とした。 ・独自に決定しているものではなく、国が定めた最低価格の範囲内で設定している。
(2) 設計・コンサルティング業務 一般競争入札方式	
【環境整備（法面安全対策）（Ⅳ期）設計業務】 ・最低価格落札方式とした理由・根拠は何ですか。	・本件は法面設計に関するもので、今回はⅣ期であるが、Ⅰ期の段階で安全な工法はほぼ確定していたため、工法の選定に時間をかけるよりも、工期内に収めることを重視し、価格競争によって早期に設計委託を行うことを目的として、この方式とした。
④三重大学	
(1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）	
【（上浜）クラブハウス外構工事】 ・実績評価型総合評価落札方式の適用基準についてご説明ください。 ・適用範囲が広く、多くの案件で総合評価をしているのは良いことだと思う。ただ国土交通省案件などでは多くの事業者に入札参加してもらうために最低価格落札方式を採用するという考えもある。 ・1回目と2回目の入札で条件が変更された点はあるか。	・実績評価型総合評価落札方式は予定価格 1 千万円以上 450 万 SDR 未満の案件で採用している。 ・入札参加者数が少ないことが課題となっているので、総合評価落札方式の適用範囲の見直しも検討する。 ・特に条件変更は行わず、1回目の入札が予定価格に達しなかったため、同条件で 2 回目を実施

・評価値が基準評価値を下回った場合は、落札候補者とならないのか。 ・今回の入札では4者が参加したが、工事内容が外構工事であったことから、業者が集まりやすかった背景があったのか、その辺りの状況について教えてほしい。	したところ、1回目で最安値ではなかった業者が大幅に価格を下げて応札した。 ・落札決定にあたっては、入札金額が予定価格を下回っていること、かつ予定価格を基準に算出された基準評価値を上回る評価値であることの両方を満たす必要がある。これらの条件を満たした業者の中で、最も評価値が高い業者を落札候補者としている。 ・4者の参加は多い方だと感じている。公告時に求めた等級がCまたはD等級であったため、中小企業でも参加しやすい条件となっており、外構工事という業種の特性も相まって、業者が集まりやすかったと推測している。
【（上浜）附属図書館等照明設備改修工事】 ・入札方式が実績評価型にもかかわらず落札率が低い理由を説明いただきたい。 ・今回の工事は機器交換が中心ということで、通常の積算とは異なり、機器の実勢価格などを踏まえた検討も必要ではないか。今後同様のケースでは、積算の在り方について見直しても良いのではないか。	・今回の照明工事では、照明器具の集中購買による仕入れ価格の低減や、照明交換のみという作業性・効率の良さから、入札金額が下がりやすい傾向があることは本学でも過去の実績から認識している。今回は業者ともヒアリングを行い、提示された価格に問題がないことを確認している。 ・積算価格については標準的な水準で設定しており、大幅な見直しを行う予定はないが、今回の事例を踏まえて、今後の検討材料や課題として捉えていきたい。
（2）設計・コンサルティング業務 簡易公募型プロポーザル方式（拡大） 【（上浜）地域イノベーション研究開発拠点A棟改修設計業務】 ・技術提案評価表は、提案内容と評価の根拠が明確に示されており、非常に分かりやすかった。評価の透明性も高く、理解しやすい内容だった。	・提案書のボリュームが多いため、事前に内容を整理し、委員全員が共通認識を持てるように評価内容を可視化している。
⑤岐阜大学（東海国立大学機構） （1）建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） 【（柳戸）手術棟1階改修機械設備工事】 ・落札率が高い理由についてご説明いただきたい。	・予定価格は、国土交通省および文部科学省の積算要領に基づき、市場調査や見積もり聴取を行って算出している。今回の予定価格に対し、入札額には幅があったが、これは市場に即した積算ができていた結果と考えており、落札率が高くなったのは偶然であり、特段の問題はないと判断している。

・今回の入札で2者が辞退してるが、辞退理由として考えられる要因は何かあるか。	・技術者の不足による対応困難が考えられる。他の自治体での落札などで、技術者の確保が難しくなり、辞退に至ることもあると聞いている。
【（加納）義務教育学校照明改修工事（Ⅲ期）】 ・落札率が低い理由及び低入札価格調査の調査内容についてご説明いただきたい。	・今回の照明改修工事は、工種が少ない工事であったことから、業者間の競争が激しくなったことが低入札価格の要因と考えられる。また、業者から提出された内訳書を確認したところ、照明器具の単価や共通費が予定価格よりも大幅に低く設定されており、コスト削減が見られた。 低入札価格調査の結果は、元請業者が自社施工を行ったこと及び照明改修工事の豊富な実績により仕入れ価格を抑えられたことが主な要因であり、ヒアリングを通じて価格に特段の問題はないと判断している。
【（柳戸）入院動物舎等改修機械設備工事】 ・総合評価落札方式の実績評価型及び適用基準の説明とその基準とした理由についてご説明ください。 ・今回の工事は難易度が高く、資材価格や人件費の影響も大きく、業者が予定価格を上回る入札となり、3回目ようやく落札に至った。今後は人件費なども反映した積算の見直しを検討いただくのが良いのではないか。	・総合評価落札方式は、東海国立大学機構の審査委員会で定めた方針と運用に基づき、工事の予定価格に応じて適用されている。今回の工事は予定価格が1億円以上2億円未満であったため、審査委員会の判断により実績評価型が適用された。 ・承知しました。
⑥豊橋技術科学大学 （1）建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事） 【次世代半導体集積回路技術教育研究共創拠点棟新営その他工事（再公告）】 ・なぜ1者だけの参加となったのでしょうか。 ・落札率が100%に近いですが、2回目の公告を出すあたり、市場調査やヒアリングを行い検討されましたか。	・同時期に他大学でも同様の工事が多く、業者の確保が難しかったため。特に新営工事は規模が大きく、技術者や資材の確保が重なりやすい時期でした。1回目の公告で価格が折り合わず落札してもらえず、参加者を増やす手はつくしたが、2回目の再公告でも1者の入札となった。 ・市場調査や見積もりの取得は行っているが、1回目の入札から図面の内容を変更したところがわかりやすく、業者としてもある程度の価格は察していると考えられる。

・国の決めている積算基準では、業者側の立場に立つと金額的に厳しい状況が続いている。特に人件費部分。そこで齟齬が出ていることが多いと感じているため、市場調査やヒアリングを重視されることも検討されてはどうか。	・参考にします。
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）	
【総合研究棟（E5棟）改修工事】	
・低入札価格調査の「12. 経営状況」が「公表しないこととする。」となっている。調べているのであれば、具体的な調査の結果を記載いただく方がよいのではないかと。 ・1 者だけの参加となってしまったのは前述の次世代半導体集積回路技術教育研究共創拠点棟新営その他工事と同じ理由でしょうか。	・経営状況については調べている。ご提案の件、承知しました。 ・同様の状況である。専任技術者を準備することが難しいと聞くことが多い。
【F棟屋上防水改修工事】	
・入札者が6 者ではあるものの落札率が低くなっている理由及び低入札調査の調査内容についてご説明いただきたい。	・低いところと高いところで倍以上の価格の差がある。予定価格としては入札者の中央値あたりであり、妥当な金額と考えている。低入札価格について、その点を重視して調査を行った。自社社員であるため、安価でロスの無い施工が可能である、足場についても自社社員であるためここまで価格を下げる事が出来た。納得できる理由であり、問題ないとした。
⑦愛知教育大学	
(1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）	
【（六供）附属特別支援学校高等部校舎外部改修工事】	
・落札率が低くなっている理由及び低入札調査の調査内容についてご説明いただきたい。	・自社施工や協力業者との連携によるコスト削減が要因。特に外壁改修工事は自社で施工できる業者がコストを抑えやすい傾向にある。 ・低入札調査内容は、手持ち工事や契約対象工事と事業所との距離関係、手持資材、施工実績等を確認している。外壁補修工事を長年手掛けており、材料を懇意の取引先から購入することでコストを削減している。また、自社施工を行うことにより工程に合わせた人員配置や作業効率の向上を図れることが諸経費等を下げる要因となっている。

・「自社施工」とは、仮設工事も含めて自社で施工することを指していると理解してよろしいでしょうか。また、低価格調査については、ダンピング防止の観点も踏まえた確認を行っている認識でよろしいでしょうか。	・下請会社や協力会社も含めて自社施工として取り扱っている。今後はダンピングを行っていないかも含め、ヒアリングを通じて確認を行う。
【（井ヶ谷）講堂舞台照明設備等改修工事】 ・なぜ1者だけの参加となったのでしょうか。 ・複数の業者に来ていただくような工夫はされているか。	・専門性の高い工事であり、該当する業者が限られていた。特に舞台照明設備の改修は、実績や技術力が求められるため、参加できる業者が少なかった。 ・設計段階では、舞台照明を扱っている複数の業者に提案や見積もりをもらった。その上で、特定の機器・メーカーにならないような仕様書を心がけた。工期についても長くとっていたが、結果として1者しか参加がなかった。
(2) 設計・コンサルティング業務 簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	
【（六供（附特）他）屋内体育施設等改修設計業務】 ・3回の入札で予定価格以下となり特定されたようですが、途中で相手方との調整等は行われたか。 ・業者との間で認識の相違はありませんでしたか。	・途中での調整はなく、予定価格に達していないことを伝え、3回目で落札された。 ・事前に見積もりを取得し、予定価格の参考としている。特段の無理をお願いしている認識はない。
⑧名古屋工業大学	
(1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）	
【本部棟改修工事（Ⅱ期）】	
・1者のみの参加となった理由は何か。 ・随意契約の経緯をご説明ください。 ・2回入札し落札できない場合、随意契約となる理由を説明いただきたい。	・競争参加資格を広げていたが、結果的に1者のみの参加となった。同時期に他大学や他案件で工事が多く、主任技術者の確保がむずかしかったのではないかと考える。 ・2回入札で落札に至らなかったため、随意契約に切り替え、不落随契協議を行い、最終的に契約に至った。お互いの考えをすり合わせるための協議を行い、最終的に合意できた。 ・学内規則で「再度の入札をしても落札者がいないときは、随意契約によることができる」とされている。工事の場合、何度行っても金額を大幅に下げる事は難しいことが多く、見切りをつけるためにも入札は2回までと決めている。 ・特に新築工事の場合、発注者と受注者の考え方に相違が起きることがあり、価格の差が大き

	くなることが多い。
【国際交流会館（共用棟）改修工事】 ・ 低入札調査の調査内容についてご説明いただきたい。	・ 2 者が予定価格を下回っていた。ヒアリングしたところ、改修工事を過去に多く受注している 20 年ほど付き合いのある下請け業者があり、十分対応できるという経営判断であった。ダンピングを行っていないこと、見積内容と設計図を確認した。 上記のとおり、明確な理由があり、問題ないと判断した。
【4 号館 601 室空調設備改修工事】 ・ 入札方式が実績評価型にもかかわらず落札率が低くなっている理由及び低入札調査の調査内容についてご説明いただきたい。	・ 落札率が低くなっている理由は、同時期に同じキャンパス内で空調工事を行っており、技術者や資材を効率的に活用できたため、コストを抑えられたため。 ・ 低入札調査は、前述の国際交流会館改修工事同様、ヒアリング・資料確認等を行い、問題ないと判断した。
（次回の委員会開催について） ・ 令和 7 年度と同様に、来年度も 8 月上旬頃の開催を予定することについて、了承いただいた。	